

令和元年度第2回自然再生専門家会議 議事概要

日時：令和元年10月18日（金） 13：30～15：30

場所：経済産業省別館238各省庁共用会議室

出席者（敬称略）：

（委員長） 鷺谷 いづみ

（委員） 大河内 勇 佐々木 淳 高山 光弘

守山 拓弥 和田 恵次

（関係省庁） 環境省、農林水産省、国土交通省から関係者

会議は公開にて行われた。（一般傍聴者2名）

【議題1：自然再生基本方針の見直しについて】

資料1～4及び参考資料2を用いて、自然再生基本方針の見直しについて、事務局から報告があった。前回の第1回自然再生専門家会議での委員からの意見に対する回答、またパブリックコメントで寄せられた意見に対する対応等が報告された。見直し案について委員から大きな指摘はなく、事務局案をベースに委員長と確認をとりながら今後の手続きを進めていくことで了承された。委員からの主な意見は以下のとおり。

見直し案について

- 当初と比べて、大きな修正から小さな修正まで、具体的な対応は納得いくものになっている。
- パブリックコメントで寄せられた意見への対応も丁寧で問題ないと思う。

資料3－1 自然再生基本方針 新旧対照表（案）について

- P.7の後半、モニタリングと維持管理を分けて説明してはどうか。例えば、この上の文章が「保全」「再生」「創出」という名詞で止めてあるので、モニタリングも名詞で区切り、「維持管理」を「順応的な管理」といった表現にしてはどうか。

その他

- 今回の見直しを経て、その内容（例えば、小さな自然再生やブルーカーボン、地域循環共生圏等）が、実際の施策にどのように反映されていくのか期待したい。
- 予算措置が今後の課題かと思う。3省庁で具体的取組を進めて頂きたい。
- 地域循環共生圏の経済的な発展という視点と、自然再生の考え方にはリンクしない場合もあるのではないかと懸念。経済重視な取組とならないように注視が必要。

【議題2：その他について】

資料5を用いて、自然再生協議会全国会議の概要について事務局から説明があった。委員からの主な質問及び意見は以下のとおり。

- 全ての協議会が参加されていたわけではないが、ほとんどの協議会メンバーの方がおられ、各協議会の悩みや課題等、広く情報を交流する機会として全国会議はとても意義があると感じた。実際に対面して一緒に活動する機会は重要と感じた。
- 分科会のメンバーが関心のあるテーマに分かれて議論されたかと思うが、現場の声がよくわかった。
- 「ファンドレイザー」とはどういったものか。どのような活用が考えられるか。

⇒詳細は分からないが、この資格を取れば協議会が助成金を獲得する際に有利となる話として分科会の中で紹介されていた。ドイツに専門学校があり、そこで研修して取ることができる資格で、日本から行って勉強する際、助成金が出て一週間程度の研修に行った例があると話されていた。

以上